

	一般的名称	報告の概要
264	ジアゼパム	小児の持続的痙攣に対するジアゼパム坐剤とミダゾラムバックル剤を比較するランダム化盲検試験において、4例が死亡した。
265	ワルファリンカリウム	機械弁置換患者550例を対象としたコホート研究において、ワルファリン中用量群、高用量群と比較して、低用量群で出血リスクが高かった。
266	レボホリナートカルシウム	前治療のない手術不能肝内胆管癌患者17例、胆嚢癌患者13例を対象としたフルオロウラシル/葉酸/イリノテカン併用療法を検討するプロスペクティブ研究において、1例がグレード4の下痢を発現し、敗血症により死亡した。
267	レボホリナートカルシウム	難治性膵癌患者17例、胆管癌患者8例、結腸直腸癌患者3例、胃癌患者2例を対象としたフルオロウラシル/ロイコボリン/イマチニブまたはフルオロウラシル/ロイコボリン/オキサリプラチン/イマチニブのPhase I 用量漸増試験において膵癌患者1例が白血球減少症、顆粒球減少症、血小板減少症、好中球減少性発熱をきたし、多臓器不全により死亡した。
268	塩酸セルトラリン	妊娠初期にセルトラリンを投与された母親から、4例の無脳症の児が見られた。
269	塩酸セルトラリン	妊娠第1期のセルトラリンの投与は、児の臍胎ヘルニアや中隔欠損と関連することが示唆された。
270	トラスツズマブ(遺伝子組換え)	ヒト上皮増殖因子受容体2型(HER2)陽性早期乳癌患者155例を対象として、一次化学療法後に本剤を投与する逐次投与群と併用投与群と比較したところ、前群で21.6%の心臓関連の有害事象が認められた。
271	塩酸バンコマイシン	2006年1月に世界で6件目のバンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌が患者から単離された。
272	トレチノイン	妊娠マウスヘレチノイン酸を投与したところ、新生児精巣にアポトーシス陽性細胞の増加が認められた。
273	トラスツズマブ(遺伝子組換え)	HER2陽性の早期乳癌患者に対する補助療法について系統的レビューおよびメタアナリシスを行なったところ、トラスツズマブ投与患者でステージ3/4のうっ血性心不全のリスクが有意に増加し、左室駆出率が有意に低下した。
274	アセトアミノフェン	ロジスティック回帰分析により、スティーブンスジョンソン症候群、中毒性表皮壊死症の発症を高める医薬品としてカルバマゼピンとアセトアミノフェンが示唆された。
275	ニフェジピン	カルシウム拮抗剤の使用は、胃食道逆流症および併発する非心臓性胸痛の原因である可能性が示唆された。
276	アセトアミノフェン	6-7歳の小児において、生後12ヶ月以内および直近12ヶ月以内のアセトアミノフェンの使用は喘息と関連のあることが示唆された。
277	ジクロフェナクナトリウム	結腸切除後の疼痛治療に対しジクロフェナクを使用すると、吻合部裂開の発現率が高まることが示唆された。
278	シロドシン	健康成人男性を対象としたシロドシンによる射精障害の発生機序を検討した臨床研究において、射精障害は逆行性射精よりは射出障害によるものであることが示唆された。
279	テガフル・ウラシル	切除可能進行下咽頭扁平上皮癌患者40例を対象として、CF-MTX-LV療法(シスプラチン/フルオロウラシル/メトレキサート/ホリナートカルシウム)+放射線療法とCBDCA-UFT療法(カルボプラチン/テガフル・ウラシル)+放射線療法を比較したところ、Grade4の有害事象は前群で好中球減少5例、血小板減少1例、感染1例であり、後群では感染1例であった。
280	ジクロフェナクナトリウム	結腸切除後の疼痛治療に対しジクロフェナクを使用すると、吻合部裂開の発現率が高まることが示唆された。
281	ジクロフェナクナトリウム	結腸切除後の疼痛治療に対しジクロフェナクを使用すると、吻合部裂開の発現率が高まることが示唆された。